



面は是等のクオタをみたす  
る」などと報告があった  
六百三店舗について、県

昨年度の「県ウォッチャー」

(毎日 未読)

## レジ袋を減らせ！ エコレシート作戦

環境に配慮した買い物をする際にレジ袋不要を申し  
したことが記録されたレシ  
ートを集めると抽選で景品  
が当たる「エコレシート実  
験」が、名古屋市守山区のス  
ーパー「ヤマナカ四軒家 募  
集箱に入れると抽選に参加  
店」など県内の同チェーン  
三店舗で行われている。八  
月三十一日まで続けられ  
る。

NPO法人「エコデザイ  
ン市民社会フォーラム」  
(同市中区)の呼びかけ  
に、ヤマナカや景品を提  
供する地元企業が協力して実  
施された。

実験期間中、レジで会計  
するときに、ヤマナカ四軒

## CO<sub>2</sub>削減 スーパーで実験

名古屋など県内3店舗

家店では、達成量を示すグ  
ラフも設置した。古田祥二  
後、他のスーパーやコンビ  
店長らは「実験開始前の二  
にもこのシステムを広  
一カ月、従業員にも買い物  
め、万博開催によって排  
出ガス削減を徹底した。お  
客さまに浸透してくれると  
いいと期待。同フォーラム  
話している。(垣見 洋樹)

「万博排出分が目標」NPO



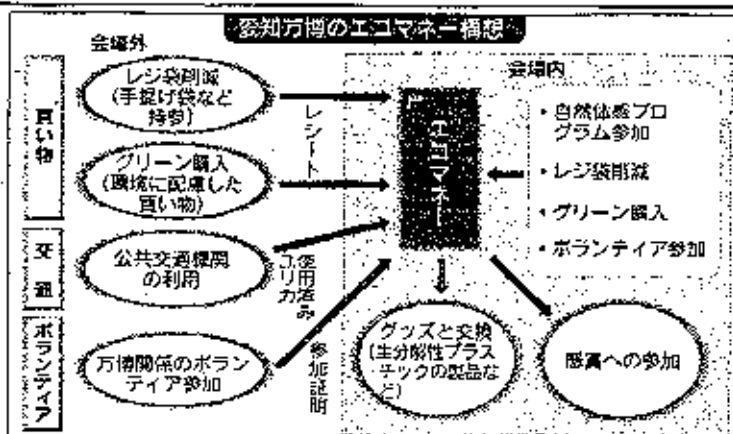
エコレシート実験で買い物客に説明する店  
員。名古屋守山区のヤマナカ四軒家店

と解説した。  
出席した約四十人は熱  
心に聴講。会場では九日  
過去最高の百六社にな

で開かれる。参加企業は

万博にエコマネー

万博に「新通貨」が目見え——二〇〇五年  
日本国際博覧会（愛知万博）協会は市民団体と  
組み、環境にやさしい行動に特典を与える地域  
通貨（エコマネー）を発行する。レジ袋の前渡  
や植林ボランティアへの参加など、協賛内外のさ  
さやかな取り組みが「努力点」として寄えられ  
る仕組み。協会は万博開募後も継続運動に力  
を注いだ。



# 環境配慮の行動に特典

□レジ袋を削減

☐ 植林活動参加

## □ 地下鉄の利用

合計 5.00%

現金計 3,279

顧客氏名 3,279

レジ袋不要

「記録」に換算して個人別に記録し、蓄積に応じて先分解性プラスチック製など環境に優しい商品と交換する仕組みを検討している。

エコマネーの対象になる行動は、手提げ袋の持参などの消費行動や万博と関連するポランティアへの参加などが中心。レジ袋削減につながる手提げ袋の知泉陶崎市で実証実験をした。同参加会場に出店する店舗だけでなく、スーパーやコンビニエンスストアにも参加を打診している。万博関連のポランティア活動には、富士山近くでの植林や万博の駐車場予定地に住むカエルの引っ越しなどを想定している。

名古屋市営の地下鉄とバスを使う人にはおなじみの「ユリカ」の使用済みカードもエコマネーの対象となる見通し。公共交通機関の利用はマイカー利用に比べて環境への負担が小さいためだ。使用済みカードの残高が一定額に達した人にエコマネーを発行することなど話している。

それぞれが答えたエコマネーを記録する道画としては、ICチップを内蔵め込んだ万博の入場券を活用する案も浮上している。また、それぞれのエコマネーは二酸化炭素の排出を減らす見込があるという成果が図に見える方向だ。

エコマネー発行に向け、エゴデザイン市民社会フォーラムは三月に愛知県陶崎市で実証実験をした。自然食品などを売る「ヘルシーメイト」(山田義夫社長)が商品を入れる手提げ袋を持参した人に「レジ袋不要型」と記した「レジ袋不要」を配布。「不要」のシートが多かった人に空気清浄器や自然食品をプレゼントするキャンペーンを展開したと云う。「一月間で千三百一十一枚のレジ袋を削減できた」という。

リサイクル運動に長く取り組んできた同フォーラムの萩原代表理事は「万博のエコマネーには多くの人や商店に参加してもらい、開募後も続く大きな運動にしたい」と話している。

|      |               |
|------|---------------|
| 各駅停車 | 1108 S02 A001 |
| 半    | 1110 M05      |

空地下鉄線を通す  
と駅ごと  
わせた  
句から選  
た。無知  
を防げる

## 地下鉄各駅に番号表示

## 地下鉄利用、ポイントためてユリカと交換

# 名古屋市、実験9月発進

名古屋市は二十二日、地下鉄の利用者にポイントを与え、一定のポイントがたまると市営交通のプリペイドカード(ユリカ)と交換できる新たなサービスの実験を九月から始めることを決めた。マイカー利用を抑えて環境に配慮した交通システムを実現するのが狙い。市は実験を通じて市民に「ポイント制」をアピールするとともに、実用化の道を探る。

市が始めるのは「エコ」端末にストラップを近づけると、ポイントTDM社会実験と、タダにポイント「貯め」が記録される仕組みだ。実験は「ITS(高度道路) 栄駅(中区)」など利用交通システム「世界会議」者が多い十駅程度を実験にあわせ、九月上旬からの対象駅とする計画で、約二カ月かけて実験する。ラッシュ時間帯は利用一回につき一ポイント、土日で募集したモニター千人、休日や平日昼間は三ポイントにICタグ付きの携帯電話とポイントを与える。ポイント話ストラップを配布。地の記録は二時間程度の間、下鉄の改札口に設置した、隔をあけることを条件と

## マイカー抑制 実用化探る



市営地下鉄は「エコ・ポイント制」の導入で利用客の増加を狙う(名古屋市内)

○五年日本国際博覧会(愛知万博)の入場券と同じタグを使い、たまったポイントで万博会場で利用できるようにするアイデアもある。

市は今年中に名古屋大学、中部地方整備局、非営利組織(NPO)などと連絡会議を設置して実施駅など詳細を詰める考え。将来的に公共交通にICカードが導入されれば、市営交通などすべての公共交通で「ポイント制」を実用化する構想も持っている。

同市の公共交通とマイカーの利用比率は現在三対七。市は公共交通の利用を増やし、比率を四対六に変える計画を打ち出している。

東山線以外の路線は平日の昼間、空席が目立つ。このことから、市は実験を地の会場にも端末を設置。目安は二〇〇ポイント程度、下鉄の利用促進にもつなぐ。来場者にポイントを一度を想定している。二〇〇を超える考えだ。

静 工 二 五分のボ 品工 いるの が見つ い異 いた 岐 市 会派と 属鉄道 を決め など断 を断 た。市 員協 する。二 二町二 早市

脱レジ袋の輪が世界的に広がっている。法律で製造、販売を禁止した国もある。数々の環境負荷が問題視されるレジ袋だが、日本の大企業・消費者の反応はまだ鈍い。そんな中、スーパーチェーン・ヤマナカ社長の中野義久さん(48)は本格的なノーレジ袋キャンペーンに踏み切った。規制を受けてやるよりは、消費者と業界の協働で、楽しく自主的に取り組みたいとの願いを込めて。(飯島 歩)

スーパーチェーン・ヤマナカ社長  
中野 義久さん(48)



「一回用紙袋」使用を4年施行。レジスターのプラスチック袋や紙の袋、ホテルの紙の袋やカバンなどでも「レジ袋の無用提供が禁止された。レジ袋は、紙の袋(5円)・ビニール袋(10円)に置き換え。

る。

ヤマナカは、これまで約三万枚。キャンペーン開始以来、減量は2.2%増えた。当面の目標の15%にはまだ差がある。中野さんは「実店舗は、万博会場に近いので、客にレジ袋を渡すのが、以前は半ば強制だった。今は、レジ袋を渡す手配はなくなり、中野さんは、従業員に呼びかけ、内部にも禁止の決意がある。実際にレジ袋も店を渡すのを辞めたい」と話している。

# 脱レジ袋の輪が広がって

トップの決断で企業は変わる。消費者が変れば社会も変わる。

脱レジ袋の輪が世界的に広がっている。法律で製造、販売を禁止した国もある。数々の環境負荷が問題視されるレジ袋だが、日本の大企業・消費者の反応はまだ鈍い。そんな中、スーパーチェーン・ヤマナカ社長の中野義久さん(48)は本格的なノーレジ袋キャンペーンに踏み切った。規制を受けてやるよりは、消費者と業界の協働で、楽しく自主的に取り組みたいとの願いを込めて。(飯島 歩)

「脱レジ袋」の輪が世界的に広がっている。法律で製造、販売を禁止した国もある。数々の環境負荷が問題視されるレジ袋だが、日本の大企業・消費者の反応はまだ鈍い。そんな中、スーパーチェーン・ヤマナカ社長の中野義久さん(48)は本格的なノーレジ袋キャンペーンに踏み切った。規制を受けてやるよりは、消費者と業界の協働で、楽しく自主的に取り組みたいとの願いを込めて。(飯島 歩)



エコポイントの取組をするヤマナカ。古河市守山町のヤマナカ四軒家店。



地球から

人・自然・くらし